コロナ禍における地域スポーツ大会の帯同報告

医療法人社団永生会 永生クリニック リハビリテーション科
理学療法士　秋本竣平
理学療法士　元井康弘
作業療法士　中里　創
理学療法士　和田　晃

1. はじめに

永生クリニックリハビリテーション科は、2013 年より地域住民のスポーツ活動での傷害予防や健康維持・向上に貢献することを目的に理学療法士(以下「PT」)が中心となり地域スポーツサポート班を設立した。当班は、八王子市バドミントン連盟と協力して同連盟主催大会において、参加選手に対してのメディカルサポート活動を実施してきた。

2019 年より COVID-19 感染拡大により大会は中止となったが、2022 年 7 月から大会が再開され、同時にメディカルサポート活動も再開した。

今回、大会再開にあたり、COVID-19 感染予防対策の徹底を八王子市バドミントン連盟と行いながらメディカルサポート活動を実施したのでその内容を報告する。

2. 大会概要

大会は第 39 回全日本シニアバドミントン選手権大会東京都予選会(以下本大会)で、日時は 2022 年 7 月 2 日、会場は八王子市狭間にあるエスフォルタアリーナ八王子(図１)でメインアリーナ、サブアリーナを使用し開催された(図 2)。競技種目はシングルスと混合ダブルスであった。参加人数は男女約 400 名で、年齢は 30 代～80 代であった。

図１エスフォルタアリーナ八王子

図２　競技会場(上:メイン　下:サブ)

3.　帯同人員

帯同スタッフはPT３名であった。

4.　大会までの事前準備

大会までの事前準備は、先行研究を調査しバドミントンで好発する傷害部位（腰椎・肩関節・足関節）を確認し同部位を中心とした評価とテーピングの練習を実施した。また救急時対応として、日本赤十字社の救急法を参考に外傷時の固定方法や傷病者が発生した場合の搬送方法などを確認した。さらに、感染症対策として、厚生労働省や東京都病院協会のCOVID-19対策、日本バドミントン協会の新型コロナウイルス対策ガイドラインを参考に感染予防マニュアルを作成し実施した。

5.　当日のメディカルサポートルーム

メディカルサポートルーム（以下サポート室）はメインアリーナとサブアリーナの間にある会議室内に設営した(図３，４)。まず、緊急時の対応として施設関係者や大会関係者と救急車の受け入れ、避難経路の共有とAEDの設置場所の確認を行った(図5)。サポート室の入口には消毒を設置し、入室者に手指消毒を依頼した。また、室内の密集を避けるため人数制限を行い、事前に問診表の記載を依頼した（図６）。室内には、一定の距離を確保して施術ベッドを２台設置した(図7)。メディカルサポート後は、使用したベッドや物品等はアルコール消毒を行い、出血や汗等の体液が付いたガーゼやティッシュと同様に、バイオハザード用ゴミ箱に処理をした(図８)。メディカルサポートは、１選手あたり概ね20分で実施した。

図３メディカルサポートルーム入口

図４サポートルーム内の様子

図５　AEDの設置場所

図６　ソーシャルディスタンスの徹底

図７　施術ベッドの間隔を空けて設置

図８　バイオハザード用ゴミ箱

6.　メディカルサポート結果と症例報告

本大会のメディカルサポートの延べ人数は、32 人で対応部位は、55 部位で腰部 17 件、足部 16 件、膝 7 件が多かった（図９）。主なサポート内容は、ストレッチ、マッサージ、怪我のセルフケア指導が多かった。今回、アキレス腱断裂を疑われる症例が発生した。感染症対策を行いながら救急対応を行ったのでその内容を報告する。症例は、30 代男性で江東区在住であった。大会関係者から、サブアリーナで選手が足を痛めて動けないとサポート室に報告があり帯同スタッフ１名は、サブアリーナに駆けつけた。帯同スタッフは、周囲の安全確認と移動場所の確保を行った後に、他の大会関係者の協力を得て受傷した選手をコート外へ移動させた。また、受傷した選手を囲むように、マスクをつけていない選手が密集した為、ソーシャルディスタンスを確保するように注意喚起を行った。その後、理学療法評価を行った。問診より発生時の状況は、左前方に飛んできたシャトルを打つ為に踏み込んだ際に、軸足となる右足のアキレス腱を誰かに蹴られた感触が発生し、その後疼痛により競技の継続が困難となった。視診や触診、整形外科テスト、問診からアキレス腱断裂の可能性が疑われた。もう一名の帯同スタッフが合流し、事前に準備していた副子を当て患部を固定(図 10)し、PRICE 処置(※参照)を実施した。選手は、1 人での歩行が困難であった為医療機関への搬送を検討したが、対応できる医療機関が見つからなかったことや居住地が江東区であり近隣の医療機関での受診を希望したことから、大会関係者と相談して PRICE 処置をしたまま、選手の友人の介助を受け帰宅した。対応終了後、帯同スタッフは選手が使用した場所や物品の消毒を実施した。

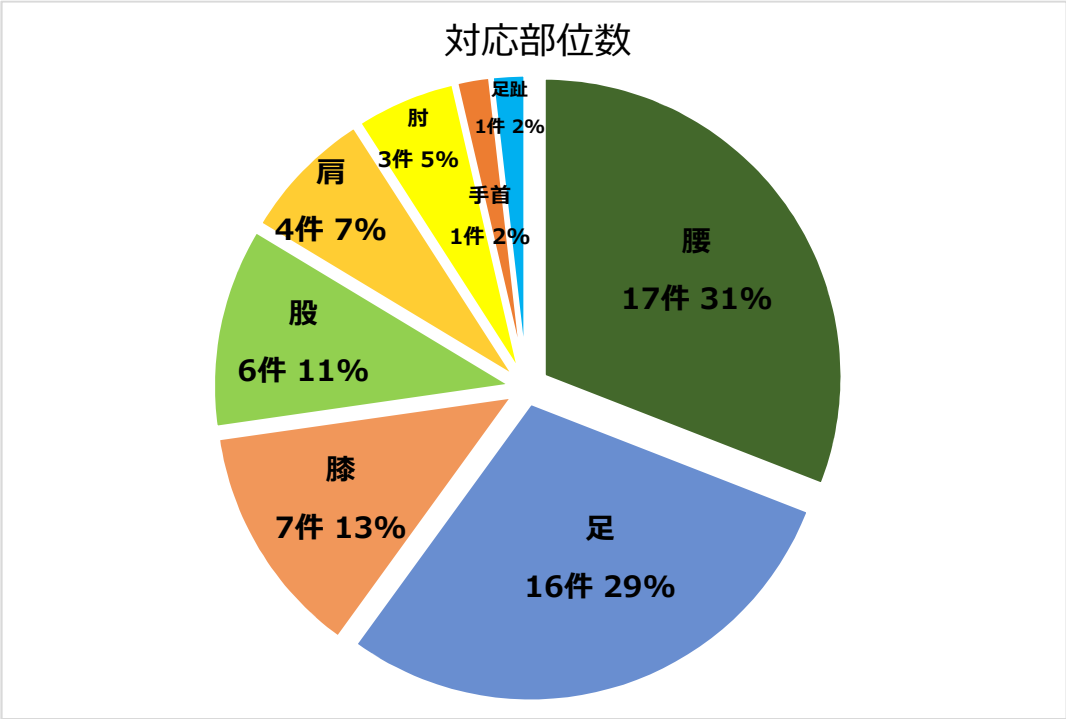

図 9 大会帯同中の対応部位数

図 10 段ボールで作成した副子

※PRICE 処置
傷害時の一次対応として①Protect(保護)②Rest(安静)③Ice(冷却)④Compression(圧迫)⑤Elevation(挙上)を行う。上記の頭文字をとってPRICE 処置という。

7. まとめ

今回、COVID-19 感染拡大以降初めて地域スポーツ大会のメディカルサポート活動を実施した。通常の事前準備に加え、感染症対策も徹底して行ったことで、適切なメディカルサポートができたと考える。